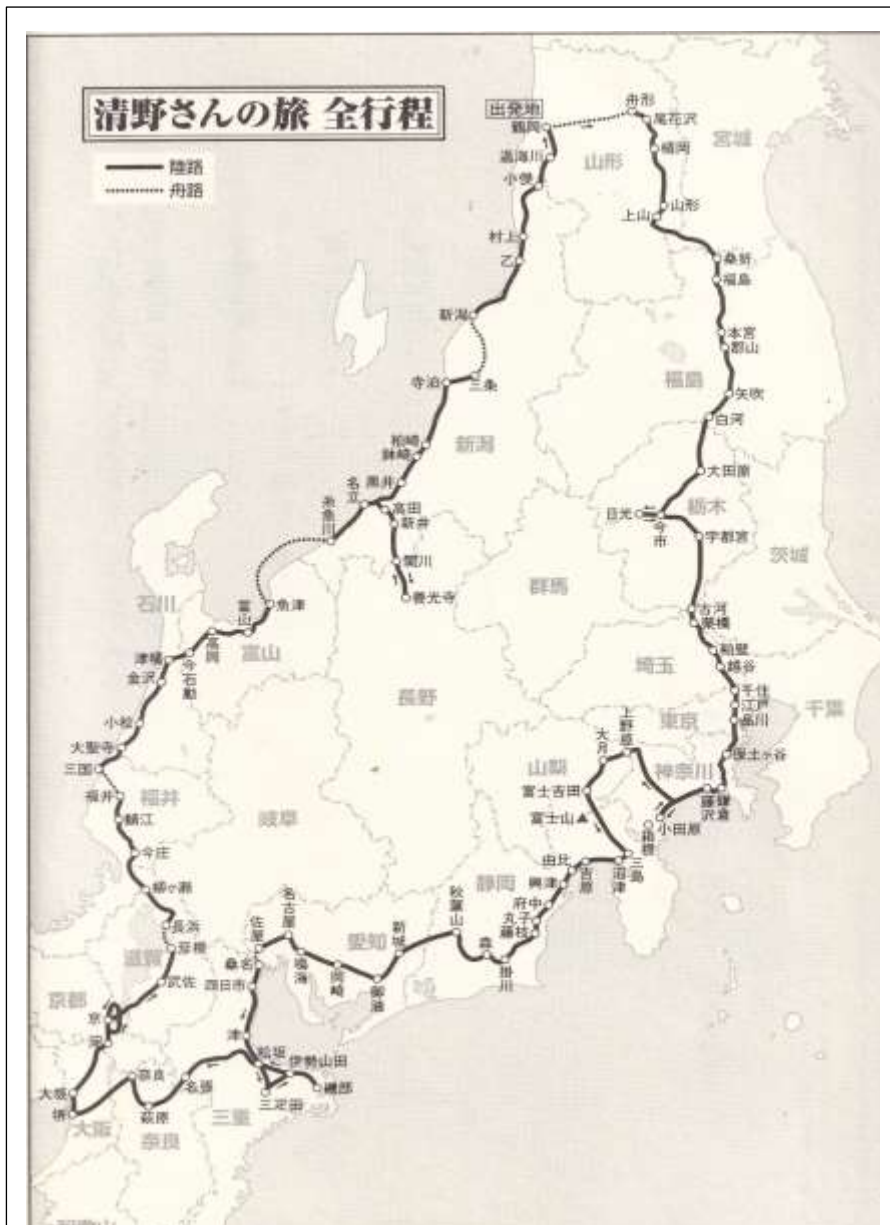


江戸時代の有閑マダム、豪商の内儀・三井清野は羽州・鶴岡から日光、江戸、伊勢、京都、そして日本海側を通り故郷へ。総距離 2340 km、総日程 108 日の大旅行を敢行している。遊郭見学、関所抜け、買い物三昧・・・そのゴージャスでスリリングな「大観光グルメ旅行」を残された旅日記とともに解説、追体験する。(金森敦子著。「きよのさんと歩く江戸 600 里」帯より)、

清野の曾祖父にあたる初代弥惣右衛門(1717~79)は、伊勢から羽州鶴岡に移住してきた人物であった。伊勢松坂の豪商三井家にあやかって三井を名乗るようになったという。三代弥惣右衛門夫婦に初めて子供が生まれた。それが清野である。清野は幼い頃から婿を迎えて家業を継ぐように育てられ、17歳の頃、養子四郎兵衛を婿に迎えた。清野がこの旅を決行したのは文化14年(1817)年3月、31歳のとき、すでに長女は14歳になっていた。三井家には諸国の商人から情報がもたらされ、かねがね伊勢詣へ行って見たいと思っていた。長旅を積極的に勧めたのは、夫、四郎兵衛(四代弥惣右衛門)であった。四郎兵衛は11年前の文化3年(1806)、25歳のとき日本海側を通して善光寺、伊勢、熊野、京都、東海道、江戸、日光、奥州道中、羽州街道に入り鶴岡に戻って来た。全行程124日、700里であった。旅を清野に勧めた夫は家業をおろそかにできなかったで、三井家と同等に付き合える家柄で保証人ともなった武吉という男、荷物持には使用人の八郎治と三人で出発することになった。まずは行程。(行程図は「きよのさんと歩く江戸 600 里より」)



出版社：パジリコ 346 頁
 金森敦子 1946 年生まれ
 新潟県出身、国学院大文学部卒
 近世・近代の人物伝、奥の細道
 関係の著作が多い。

1 文の貨幣価値
 1 文 = 現代感覚で 47.6 円
 (磯田道史「武士の家計簿」)
 旅籠は 1 泊 200 文(約 10,000 円)
 が多かった。

地図は「きよのさんと歩く
 江戸 600 里」より借用

て魚食べ、旨いことに御座候 千住で食事をした後、馬喰町の羽州人の定宿大松屋泊。(千住に来て始めて美味しい食事に預かった様子で事細かに書かれている)

5月23日～6月4日まで13日間 江戸滞在

5月23日、上野の寛永寺見物、 24日、歌舞伎見物。 25日、鶴岡藩主酒井左右衛門の上屋敷(神田橋御門)へ挨拶。数々の御馳走(卵料理お気に入り)に預かる。 26日、伝通院。 27日、鶴岡藩邸の理三郎、養蔵から両国、柳橋の田川屋で接待(鯛、鰻、卵焼きなど)を受け、吉原、女郎の揚屋へ。聞しにまさり見事。吉原の美々しき事、話よりおそろしく帰る。 28日、養蔵が同行し、鶴岡藩の中屋敷、湯島天神、不忍の池、西浅草の東本願寺。清野の言葉は羽州出身の人にしか通じなかったのも、養蔵の案内には感謝。浅草の料亭で鯛、マグロなど懐石料理 29日、この日も理三郎と養蔵同道で江戸見物(江戸藩邸のサービスの良さは、三井家の献金にあり。明治になったときの身分は士族であった。当時、小藩は士分を金で売った) 30日、神田橋のお屋敷拝見。芝居見物。 6月1日、浅草三社権現祭礼 2日、木挽町芝居、面白し面白し。 3日、さすがに疲れたのか「休み」とある。 6月4日、江戸見物の最後の日、上野の寛永寺、染井、植木屋が集まっている町、江戸見物の定番であった。

江戸での滞在は13泊であった。旅日記には記されていないが大量の買い物をした。藩邸の荷物を送るとき一緒に送ってもらった。こうしたお金はあらかじめ藩邸に送っていたらしい。



両国柳橋



木挽町芝居



吉原遊郭(幕末～明治初期)

6月5日、江戸を出発、芝増上寺、泉岳寺、品川の井筒屋泊、日本橋から2里。

6月7日、鎌倉山、鶴ヶ岡八幡宮へ参る。大仏に参り6文で腹の内に入る。鎌倉より百文にて案内頼むべし。500文にて舟に乗る。江ノ島めぐり。江ノ島へ津屋善兵衛と申す家良し。2匁にて昼賄い、奈良茶に汁、鯖、いひの皿、鮑、焼き貝、中皿・鯖の煮つけ、小鯛の吸い物食べ、それより山へ行く。貝細工、屏風の絵、品々店あり。だんだん行けば窟あり。必ず行きて見べし。江ノ島泊まり。この日の行程、4里。

6月8日、江の島立つ。遊行上人の寺詣。それより行きて大磯の中頃に、名所鳴立沢。庵のような家あり、西行法師の木像あり。景色よし。それより小田原泊。この日の行程、10里9丁。



鶴ヶ岡八幡宮 海が見られる



トンボロの江ノ島



江ノ島詣の女性たち 広重画

6月9日、小田原逗留。千歳屋と申す茶屋に泊りは悪し。清野等は通行手形を持っていなかったのも、武吉と下

男の八郎治は手分けし箱根の関所以外の抜け道を聞きまわった。箱根を迂回する脇道には関所が設けられていたが、旅籠屋が書いた証文で通してくれた。勿論、多額の礼金は必要だった。分ったことは、相模国津久井郡才沢鼠村にある鼠坂関所（百姓2人が関守をしているだけ）を通ることであった。大山道者が通る道で北上して甲州道中へ出る直前に鼠坂関所があり、そこさえ通れば大月から南下して三島へ出ることが出来た。

- 6月10日、小田原から大磯へ引き返す。大磯の手前の国府津にある真楽寺に参拝。小田原・国府津新宿間4里。
6月11日、東海道を離れて北上し伊勢原の飯山へ。およそ6里余。12日、鼠坂（関所）何処の誰、伊勢へ参ると申し、通し下されと申し、脇道を教えて通し候。**猿橋**泊まり。
6月13日、猿橋から1里余で大月。ここまでが甲州道中。吉田から山中村まで進み、**山の中の旅籠泊**。200文、泊りは悪し。猿橋から山中まで約8里。

- 6月14日、山中街道、富士見え、よろし。富士の裾野をかかり、三島へ入る。**三島**泊、伊勢屋
6月15日、旅籠屋の前の三島神社参拝。沼津、原、ここに浮島原あり。足柄に愛鷹山見ゆる。柏原茶屋、**鰻の蒲焼き**あり。吉原、蒲原、**由比**泊。三島から由比まで9里16丁。
6月16日、由比発、倉沢では**さざえのつぼ焼き**、袖師ヶ浦。興津川は蓮台に乗った模様。興津に入り清見寺。ここから富士・愛鷹山・三保の松原、田子の浦など見えた。舟に乗り三保の松原に上陸。そのあと、久能山東照宮参り。浜辺、**塩焼き**多し、**鰯**捕れて面白し。その後、府中へ出て、安部川45文にて渡る。肩車なり。
（川幅は約648m）**あべかわ餅**。由比、久能山、**丸子**泊まり、約10里
6月17日、丸子、岡部、藤枝。大井川、蓮台・肩車・荷物べて684文。島田、金谷。この間日坂。駕籠に乗る。小夜の中山、**飴餅**一つ5文。夜泣き石あり。日坂名物**わらび餅**。**掛川**泊まり。旅籠200文。よき家なり。丸子から10里15丁。



沼津宿 女子旅



大井川蓮台



袋井宿 女子旅

- 6月18日、これから清野たちは東海道を外れて秋葉道を進む。秋葉神社、家康ゆかりの鳳来寺を参拝するのが目的。山坂にて大気に悪し。秋葉神社の麓にある**坂下**泊。掛川から10里半。
6月19日、坂下から登っていくと灯籠がおびただしく並んでいる、清野は女性が故に参拝は本堂まで。下り坂、上り坂たえずまことに難所。天竜川も上流では川幅が狭く渡し舟が出ていた。この日は**大平**の山本方に200文で泊まる。秋葉神社から6里半。
6月20日、大平の手前から難所、四十七曲がりと言って、山坂すさまじく大野というところで、荷物を小分けして運んでもらい、やっとのことで鳳来寺に辿り着く。東照宮の御霊屋に参拝、**新城**に出て泊まり。朝出発した大平から7里半。この辺りから上方弁が混じる。
6月21日、新城から御油へ2里半。赤坂を経て岡崎へ。岡崎で**饅頭**、**淡雪**、女郎多し。新城から**岡崎**まで9里。
6月22日、矢作川を舟で渡り、池鯉鮒、**米饅頭**。有松、**熱田**の桔梗屋泊、夕食に満足。この日の距離8里14丁
6月23日、名古屋に回り、名古屋城を見ようとしたが普請中。佐屋から木曾川を川舟で3里半下り桑名へ。
桑名泊。**名物の蛤**をはじめ料理は美味。子供が小間物を売りに来て道中必要な物を買えた。この日の距離、船路とも10里。

6月24日、桑名を出発、小向にて焼き蛤を食べる。一つ二文。富田にてまた食べる。四日市、火縄、団扇の名物。東海道と伊勢の追分、ここで昼食、小鰯の煮つけ。白子、型紙切って売っている。上野まで馬に乗る。

6月25日、一身田、高田派本山に参る。それより津、町の長さ2里半。松坂の入口

6月26日、三疋田の竹岡三四郎の家に招かれた。(関係は不明だが三井家と何かの縁があった。夫、四郎兵衛も泊まっている)鯛づくしの御馳走で心から歓待を受けた。27日、洗濯。竹岡家には蜜柑の類沢山あった。

6月29日、三疋田から約4里半で伊勢山田。山田に着くと御師の三日市太夫次郎宅へ上がった。(鶴岡の三井家は檀家となっている。宿坊を兼ね間口55m、奥行110m、総床面積約800坪)内宮参り、茶屋にて酒を呑み、古市にてうどんを食べ、のきちという茶屋で呑み。大夫宅に戻り小鯛の平に竹の子入れ、お刺し小鯛、なますなど、大夫が挨拶に出る。14、5歳と見て至って美男也。(肝心の伊勢神宮参拝の様子は全く書かれていない)

6月30日、二見浦まで舟で行く。角屋にて海鮮料理。朝熊の金剛証寺へ(お伊勢参らば朝熊をかけよ、朝熊ゆいかけねば片参り)と歌われていた。

7月1日、角屋、朝の景色、言うばかりなし。右の富士山見ゆる。朝熊山への道を再び行き、万金丹本家(毒消し・気付の妙薬として伊勢に来たものは必ず購入)一粒3文。清野は金2分300文と大量に買っている。それより磯部道、いたって難所なり。この日の宿泊は妙見町の藤屋儀兵衛。宿代は300文と高級旅館。伊勢での買い物2両(約30万円)、行李で京都の泊まる旅館に送った。

7月2日、伊勢山田を発つにあたって外宮を参拝。お祓い130枚購入。馬に乗って松坂へ。木綿を2反購入(丁稚の仕着せ用)を買って、三疋田の竹岡家に戻る。

7月3日、竹岡家で脚絆など作って過ごす。4日、正五郎宅に呼ばれ御馳走になる。7月5日~7日、記述なし。8日、竹岡家で送別会。9日、三疋田の竹岡家出発、馬に乗って松坂へ。



御師三日市太夫四郎宅跡



古市備前屋踊の図



朝熊山金剛証寺

7月10日、馬で七見峠を越え、名張へ8里14丁

7月11日、名張から荻原、武吉と交替で馬に乗って4里20丁。長谷寺参拝、丹波市泊。この日およそ10里

7月12日、丹波市発、奈良へ、案内人を雇い、猿沢の池、東大寺等見学、奈良泊、この日丹波市から2里半

7月13日、法花寺、西大寺、法隆寺、達磨寺等、当麻泊。

7月14日、当麻寺から大和と河内の国境岩屋峠を越えて堺泊まり。

7月15日、紀州街道を通る旅人は必ず立ち寄ったという妙国寺の蘇鉄は日本一と言われる名木で見に行く。妙国寺の裏門前に刃物屋あり清野は大量に購入、荷づくりして鶴岡に送るよう依頼。昼食をとった浪花屋の笠松は有名。住吉大社、天下茶屋、天王寺、日暮れ、内坂町まで行き女郎を見物。

7月16日、大坂見物。四ツ橋でみやげに煙管三本、780文。阿弥陀ヶ池、新町では井筒屋という揚屋に上がって大夫を見る。17日、歌右衛門の店へ行き、その後堂島、生玉神社へ宿に戻り淀川を遡って京都伏見へ行く夜船を待った。

7月18日、明方、伏見。伏見稻荷、東福寺、三十三間堂、下六條泊まり。

7月19日、東本願寺、御髪剃り、御瓦戴き(仏弟子になる行事)、五条橋の茶屋、買い物

7月20日、祇園祭見物、買い物（土瓶23個、茶わん100個など）、清水寺参拝。
 7月21日、大雨、買い物、仏光寺、22日、帯屋に行き買い物、雪下駄、雛を買う。
 7月23日、案内人を頼み、京都の名所めぐり。六波羅蜜寺安全寺、法願寺、高台寺、知恩院（浄土宗総本山）、南禅寺で豆腐、永観堂、光雲寺、黒谷の金戒光明寺、蓮生坊寺、それから宿に戻ったが、綿屋に出かけて数珠を買った。そのタフさには驚く。
 7月24日、西本願寺、東寺、それから島原へ（傾城町）、二条城、北野天満宮で田楽、金閣寺、今宮、大徳寺、上加茂神社、下賀茂神社、戻り道で雪駄を買う。25日、連日の見物で疲れたのか、大丸で買い物だけ
 7月26日、橋本の八幡宮から宇治を巡る。伏見の船宿から石清水八幡宮、宇治に泊る。
 7月27日、平等院、石山寺で餅、坂本に泊まる。28日、阪本から愛宕山に参詣し、山中越をして京都へ。
 7月29日、この日は京都北西部を巡った。妙心寺、愛宕山、嵐山、渡月橋、天竜寺、松尾の宮、
 7月30日、帯屋の手代が来て西陣に織物見に行く。31日、休憩。鶴岡を出発してから84日



島原大門出口の柳



大阪屋 屋形船



祇園一力茶屋

8月1日、京発つ。山科御坊、大津より舟に乗り矢橋で下船、草津、野洲を経て武佐泊
 8月2日、武佐から長浜まで船路を含めて約9里。
 8月3日、長浜から3里北上すると木之本、金沢へ向かう北国路、しばらく行くと柳ヶ瀬、幕府の関所がある。清野は関所手形を持っておらず、金を払って険しい山道を案内してもらい板取泊
 8月4日、板取発、湯尾峠という急坂、馬に乗り府中（武生市）。板取から福井まで約10里
 8月5日、これから先、福井藩を出ることになり手形が必要。旅籠屋が奉行所に出向いて手形を貰う。舟にこの乗って三国へ行く。陸を行き小牧でまた舟に乗り吉崎泊まり。この日合わせて11里余。
 8月6日、早朝に東御坊参詣。加賀の大聖寺、松任泊まり。この日の距離12里14丁。
 8月7日、松任発、野々市、金沢、並木がなく炎天下休む所なし。金沢は見ることなく加賀と越中の境、倶利伽羅峠を越え今石動に泊まる。距離9里4丁。
 8月8日、今石動より舟に乗り高岡まで。峠を越えて越中富山神通川を渡り富山泊。川舟4里、徒歩6里。
 8月9日、滑川、魚津、この先金沢藩の境番所を通らねばならず、夜、海を舟で渡れば堺番所を通らずにすむと聞き、その上市振関所も通らずとも聞き決行、富山から魚津まで徒歩6里、それから舟で約15里。
 8月10日、糸魚川に上がり、海沿いの道を歩き能生という所で昼食。それから馬に乗って名立泊。5里12丁。
 8月11日、名立を出発。清野等は善光寺へと向かう。この日も海岸を行く。光源寺、五智の国分寺を経て高田城下を抜け、北国街道を行く。高田から2里半で新井。新井泊。この日の行程9里半。
 8月12日、新井から牟礼、9里半。途中、関川番所は関所抜け。
 8月13日、善光寺、昼から本堂の開帳。6文にて浄土めぐり。100文あげる。この日は盂蘭盆。善光寺は伊勢同様、猥雑、エネルギーに満ちた浄土だったようだ。この日の行程、牟礼から善光寺まで3里半。
 8月14日、朝食後、善光寺参りし、今まで来た道を引き返す。善光寺での滞在は短かった。無事関川の関所は手を使って抜け。信濃路より越後路、林檎・瓜・西瓜沢山なり。関山泊まり。善光寺から10里18丁。
 8月15日、関山発、道々、瓜沢山なり。高田茶屋、瓜や蕎麦の名物。これまでの一番なり。黒井泊まり。

違いないと金森は最後に述べている。

三井家が居を構えていた下肴町は鶴岡城の外構を兼ねた内堀が流れ荷揚げなどに有利で次第に豪商となって行ったが明治2年（1869）鶴岡の大火により焼失。現在、蔵屋敷の一部が残っている。

江戸時代も後期なるとお伊勢参りが盛んになり多くの女性も旅をするようになったが、清野のように日記にしている女性は稀有である。清野はもともと自分の覚えとして書いたものであり、よもやこうして今、世に出るとは思わなかったであろう。さて、現在、1万キロ歩いたとか4万キロ歩いたという人は多数いるが、わが協会の平野武宏さんや池内淑皓さんのように歩いた記録を文章や写真として残しておられることには敬意を表する。これらの記録は後々、貴重な記録となることであろう。 完

挿画、地図はいずれも無料画像を使用。